

が、私は、「おもちゃ」は子どもたちが自分の生活の必要性の中からつかみ取っていくもの・自分の求めに従って行動しているとき出会うモノだと思っています。そうした出会いが生まれるような環境を拓ひらいていくことが大人の役割なのかもしれません。

私が、子どもとモノの感動的な出会いを通して学んだ「おもちゃとは？」について早速述べてみたいと思います。

△自己発揮の対象物であること▽

今、私が一番面白いなと思って見ているのは、自分の好きな所に行ける自由を獲得しはじめた一、二歳児の、探索を通してのモノとの出会いの姿です。それは、子どもとモノとのかかわりのありようを根本的に考えさせられる重要な意味を含んでいると思えるのです。

五月、竹やぶを散歩していたら、地面から十センチぐらい芽を出した細筍をみつけたさなえ（二歳）が、

「あっ」と歓声をあげ、さっそくそれを引き抜こうとしました。けれどもなかなか抜けるものではありません。そばにいた私の手を引っぱって「とって」と求めるので私も力いっぱいやってみたのですがどうしても抜けません。そこで「さなちゃん、とれないよ」と話

すと彼女はにぎりこぶしをつくっておこり、何とか取ってほしいと全身で訴えるのです。そこで先の尖った石を使って切りおとしますと、さなえは大喜びでその筍をもち、先っぽの繊維がしょぼしょぼと生えたところをペロツとなめて石段の所にぬりつけるのです。

そして何も描けないとわかるとまたなめてこすりつけるので、つい「さなちゃん。なめてはきたない」と注意すると、ニコツと笑って水たまりを見つけ、そこに筍の毛をつけて石段にしきりに何か描き始めました。

竹やぶの細い筍をみた瞬間、彼女はそれを筆みたいなものだと思いついたのでしょう。細筍をみてとっさに、彼女の祖父が筆を使っている姿を思い浮かべたのかもしれない。ともかく自分の発想を行動に表わさ

ずにはおかれなかったさなえです。

△幼児の生活要求にこたえるモノであること▽

幼い子どもの活動には、周囲のモノを探りながらその事物を知り、そのものらしく扱えるようになっていく力と、もうひとつ自分が出会ったものをいろいろにみだててあそぶ力の両方が養われていくようです。幼児がモノに出会ってそれを何かにみだてている時、大人がそのみだてやイメージを誤解すると子どもはとももおこります。それほど幼児にとって自分のつもりやイメージでの世界は大切なものなのです。

さなえが、細笛を見た瞬間、自分の発想したことを表現せずにはいられたかったこと。いわばモノは、(おもちゃも同様ですが)そうした子どもの自己発揮の道具というのでしょうか。まず内的な自分を表現する個性的な、その子独自のモノでなければならぬと考えさせられたわけです。そしてモノは、子どもたちに扱われることによって、はじめておもちゃになるという

極めてあたりまえのことが、私の中で確認されました。というのは、ここ数年来、おもちゃが単にコレクション的に集められたり、飾られるのみで、あそぶための自己発揮の道具になっていない傾向があるからです。ミニカー、シール、テレビのアニメ人形など次々と並べ抱え込むだけで、そこにはその子独自の発想を表現する活動がないのです。おもちゃは、まず子どもたちの育ちはじめた多様なイマジネーションも表現する、生活要求にこたえるモノであってほしいというのが、私の基本的な考えです。そういう点で、探索活動の旺盛な一、二歳児がなぜ、石や棒切、布、新聞紙のような素材的なものを好むか？ 答えは明らかです。

△選択肢をもった半素材的なおもちゃを▽

子どものあそびの発達は、子どものイメージする力に則しているのではないかと考えられます。前述のさなえのように、あるモノを別のものにみだてたり、状

△半素材的なモノであそぶ子どもの姿▽

砂袋は、さらしのような丈夫な布で袋を作り、その中に一キログラム、三キログラムぐらいの砂を入れ、砂が出ないように上からも一枚布袋をかぶせたものです。それをたくさんつくっておくと、年齢によってそのあそび方はさまざまですが、例えば工事現場で働く



▲バスごっこ

おじいさんたちの様子をみてくると、それはたちまち工事現場の重たい砂袋になり、三、四人で力をあわせて運搬されます。そして比較的小きな砂袋は、肩にかつがれてお米やさんごっこに利用されたり、宅配便やさんの荷物になったりします。

中が空洞になっている単なる木わくが、子どもたちの豊かなイマジネーションを実現する遊具として、いかに活用されてきたかは、写真で納得していただけるのではないかと思います。

子どもたちの日常の生活経験から内在化されたイメージが、さまざまなモノと出会い、豊かな表現に結びついていく。そのプロセスこそあそびであることを語ってくれるようなおもちゃが、子どもと大人の共同生活で豊かにつくられていくことを願ってやみません。

(川崎市宮崎保育園)